



令和6年6月28日発行  
足立区立足立小学校  
校長 加藤 憲司

学校だより



あだち

令和6年度  
第4号

7月

〒120-0015 足立区足立3-11-5  
Tel 03-3887-8891

HPアドレス <http://www.schoolweb.ne.jp/adachi/adachi-e/>



## 一人一人の特性と多様性を大切に

校長 加藤 憲司

新年度になり、早くも3か月が経ちました。7月は、5年生の鋸南自然教室やひまわり学級の日光宿泊学習等の行事や水泳学習に加え、夏休み前までの学習を振り返るための大切な時期です。また、家庭での生活や学校での学習の様子などを話し合う機会として、個人面談を予定しておりますので、よろしくお願いします。

さて、足立小学校の特色ある教育活動の一つとして、「一人一人の特性と多様性」を大切にしています。ひまわり学級（特別支援学級）や目の教室（弱視通級指導学級）の設置校として、子供たちがそれぞれ異なった特性をもち、多様性があることを大切にしながら指導を行っています。また、ACR（コミュニケーションの教室）にも該当の子供たちが楽しみながら通室しています。

さて、私事ですが高校・大学・社会人になった後もラグビーを続けてきました。ラグビーは、身体が大きい人や小さい人、足が速い人や力がある人、様々な身体特性をもった選手それぞれが活躍できるポジションがあるのが大きな特徴です。ラグビーには、「One for all All for one」という有名な言葉があります。「1人はみんなのために、みんなは1人のために」と誤解されることが多いのですが、本来は「1人はみんなのために、みんなは1つの目標のために」と言う意味なのだそうです。ここでいう目標は、ラグビーでいうトライという得点を取ることや勝つということです。これを足立小学校に置き換えてみると、勉強や行事などの目標の達成に向かって、それぞれ得意なことや苦手なことが異なる特性をもつ子供たちが自らの役割を果たしながら、互いに信頼し合いながら助け合っていく学校を作っていくことです。

また、2019年に開催されたラグビーワールドカップ日本大会で、日本代表チームがアイルランドやスコットランドといった強豪を破り、初めて予選を突破し、ベスト8まで勝ち進んだことは記憶されている方も多いのではないのでしょうか。一方で、日本代表と言いながらも代表登録31人中15人が日本人ではなく、他国にルーツをもつ選手であることに違和感を抱いた人もいたかもしれません。何よりキャプテンであったリーチ・マイケルはニュージーランド人です。現在も、日本代表チームの特徴は、日本国籍を取得した外国出身者や外国人も多数選手として参加する多様性（ダイバーシティ）であり、出身国が異なる選手たちが日本代表として一丸となって戦う姿に国籍を超えて感動を与えてくれます。

現在、都内全体で在留外国人数や外国籍の児童・生徒数は増加傾向であり、足立区や本校も同様の傾向があります。多様性（ダイバーシティ）に基づく考えは、いまやグローバルスタンダードであり、未来を生きる子供たちには、全ての人間が個性や特性を尊重し合いながら、多様な文化や価値観を受け入れ、互いに支え合う社会の一員としての資質・能力を身に付けていくことが大切であると考えています。

### 学校公開週間（6月11日～15日）が終わりました

6月11日から15日まで実施した学校公開には、保護者、地域の方、のべ938人にご来校いただきました。特に、15日（土）には、468人にご来校いただき、子供たちの学習の様子を参観していただきました。内訳は以下のとおりです。参観後のアンケートでは、概ねよい評価をいただきましたが、厳しい評価をいただいた学年・学級もあり、改善に向け取り組んでいきます。次の学校公開は、10月7日（月）～11日（金）の予定です。たくさんの保護者・地域の皆様のご来校をお待ちしています。

	11日(火)	12日(水)	13日(木)	14日(金)	15日(土)	合計
参加者数	94人	77人	189人	110人	468人	938人